多文化交流ラウンジーと私
―　留学生友達　―
インタビュー結果まで

グループ番号：Ｂ－５
名前：金潤（キム・ユン）

1. 秋田大学の多文化交流ラウンジーと私（紹介文）

いつも留学生たちが易く集まったり、寄っていったりする場所の多文化交流ラウンジーは、留学生たちが昼ご飯時間に集まって昼ご飯を食べて、授業がないときも集まって色々な話をしたりする。又、私の日常生活の中で、だいたいの時間をその人たちと過ぎている。留学生の友達と一緒に授業を受けているし、授業でも色々なグループ活動として議論とともに色んなことについて話す。

最近は、留学生の友達と一緒に青森県弘前市のモニターツアーに参加したことがある。そのとき、一緒に写真をとったり、温泉に入ったりしながら、もっと親しくなった。特に、英語でうまく話せない私はゆっくり日本語で話し合って、英語圏の友達とももっと仲良くなった。

こういう留学生の友達は母国と離れて一人暮らしをしている私が何かを悩んでいると、そばに来て、「頑張れ」と言ってくれる。こんなに親しい友達と一緒に話しながら、悩みはいつの間にか忘れて、笑っている私をみつけられる。

したがって、コミュニティというのはちょっと怪しいかもしれないが、今の私にとって大切な留学生の友達と授業以外に会って、話す場所のコミュニティだ。

2.インタビュー相手

私がインタビューの相手を選んだ人は留学生の友達の中で、イスラエルから来た「ダニエル」さんだ。普通、アジア人は外の姿が似ているので、区別することが難しいと思う。特に、韓国と日本と中国人はとても似ていたと思っている。でも、ダニエルは初めにみたイスラエルの人だった。初めには親しくなることが難しかった。紹介文でも話したが、通じる言語が二人とも足りなかったからだ。しかし、最近はとても仲良くなりました。初めに彼を見たときはキリスト教の「イエス」様の雰囲気で、あまり話す機会もなかったし、通じる言語以外にも、興味などのきっかけというのが全然なかった。仲良くなった今さら、なぜ、彼をインタビューの相手で決まったかというと、ダニエルは初めにアジア人（韓国人）の印象とか私を見たとき、どう思ったか、今のように仲良くなるとは思ったかなど、聞いてみたいと思ったからだ。

3.インタビュー結果

いつも留学生たちが易く集まったり、寄っていったり、昼ご飯を食べたり、話をしたりする多文化交流ラウンジー。ここで、会っている留学生友達とだいたいの時間を過ぎている。今の私にとって、実際にコミュニケーションが行われる場所だと思っているし、留学生活を楽しめる場所だ。

インタビュー相手のダニエルも、「多文化交流ラウンジーについてとても面白い場所だ」と思っていた。なぜなら、「様々な国から来た人がいるし、いつも日本語や英語はもちろん、韓国語、中国語など色々な言語が聞こえている」からだと言った。特に、「多文化交流ラウンジーにいると、様々な文化を感じるときもあった」と言った。たとえば、ランチタイムに昼ご飯を食べている私を見ると、「韓国は鉄で作られた箸を使っている」と思ったり、「色々な国の食べ物を食べてみたりする」からである。ある日は、「ケニャ（Ｋｅｎｙａ）の友達と結婚について話したことがあったけど、ケニャでは結婚するときに花婿になる男の人が花嫁になる女の家族にたくさんお金を出さなければならないという風習があることを聴いて、ちょっとおかしいだと思った」と言った。イスラエルの場合は、「結婚するときにお客様が封筒にお金を入れて祝いの意味であげることはあるが、そんなことはなかった」からだ。

なお、「多文化交流ラウンジーにいるとき、新しい情報を発見するときもあった」と言った。国によっ

て考え方が違うというのがそれだ。たとえば、ダニエルとマリア（イスラエルの女の友達）とケニャの女の友達と男の友達と話すときだった。ダニエルは軍隊について話した。「イスラエルでは男女全部兵役があるが、ケニャはそうではなかったので、これを聴いたケニャの友達は少し驚いた」と言った。そのとき、「ケニャは兵役がないということを分かるようになった」といった。

しかも、「国が遠くても似ていることがあることも面白い」だとおもったと言った。カルロスというチリの友達がいる。「道を行きながら、日本の場合は道がきれいだけど、チリとイスラエルの道はあまりきれいではなかった」と言いながら、何か似ているだと思ったと言った。また、「両国はＲｅｇｇａｅ音楽を好きで、どんな国でも若者はお酒を飲むのが好むのが似ている」と思ったと言った。

インタビューをしながら、私だけではなく留学生の友達のダニエルも様々な国の人がいて、面白くて楽しめる場所だと思っていたと分かった。インタビューを終わりながら、韓国人の印象や私を初めにみた印象、青森県のモニターツアーのきっかけも聞いてみた。ダニエルは「ここに来る前に見た韓国人はイスラエルで韓国語を教えてくれた女の先生だけだったので印象とかはあまり知らなかった」と言ったが、「やさしくて、賢くて、親切な人」だと思っていたといった。私を初めに見たときも同じで、私がダニエルを「イエス」と似たといったように、私は似ている人がないかと聞いてみたけど、テレビ番組はあまり見ないので思い浮かぶ人はなかったといった。又、青森県のモニターツアーとして仲良くなったのは確かだが、それがなくても今のように仲良くなることができると言った。二人とも言語は足りなかったのは確かだが、ある程度は分かるので、そんなに大きい問題はないと思っていた。インタビューをしながら、言語が両方足りないのは確かだった。私は日本語、ダニエルは英語。お互いに上手な言語が違ったからだ。でも、そのおかげというか、インタビューが終わってからもっと仲良くなった気がした。足りない言語を二人とも頑張って、自分たちが言いたいのを言うようにして、正直な話をしたからだ。

４．多文化交流ラウンジーと私

留学生活をしている今の私としては、家族や母国や韓国の友達全部離れて生活するので、大変なことも色々できたり、困ったり、心配したりすることがある。しかし、日本の秋田に来てまた色々な友達ができた。顔が暗いと「心配でもあるか。」と言いながら声をかけてくれたり、笑っていると「いいことでもある。」と言いながら声をかけてくれたりするいつでもそばにいる友達がここでもできて、その人たちと一緒に一日の大低の時間を過ぎている。授業も一緒に受けたり、遊びに行ったりなど。それらと一緒にするとき、易く集まったり、食事をしたり、話したりする場所が「多文化交流ラウンジー」なのだ。「多文化交流ラウンジー」では、留学生はもちろん、日本の友達もよく来る。留学生たちと一緒にしてみると、ダニエルと同じように、新しいことを見つけられる。様々な国から来た人なので、違うことをすぐすぐ見つけられて、話しながらいつも笑っているし、面白いことがたくさんある。例えば、インドネジアの「アユ」という友達がいて、一緒にラウンジーで昼ご飯を食べるとき、「自分で作った？」と話し始めて、「何を使って作ったか。」も聞いたりする。そうすると、「インドネジア」は宗教で肉は食べられないものもあれば、食べられても普通食べられるものでは食べられないといった。そのように、母語の韓国とは違うことを知ることになると、面白くて笑いながら、その中で留学生活を楽しんでいる。インタビューの相手「ダニエル」と大低同じだった。これからでも、その考えは変わらないと思う。仲良くなった様々な国の友達と一緒に頑張って勉強している日本語と英語を通じて、色々なことを話したりしながら十分楽しめると思うからだ。また、留学生だけではなく、日本の友達ともよく「多文化交流ラウンジー」で会って、一緒に話したりして、その中で笑える思い出を作りたいと思っている。後、韓国へ帰ったときも留学生活を思い浮かべたり、秋田大学を思い浮かべたりすれば、「多文化交流ラウンジー」で楽しんでたこと、話したことを笑いながら思い浮かべたい。そうするために、いつもそこで楽しみたいと思っている。

5. クラスについての感想（改善を希望する点）

今度、「多文化コミュニケーション入門Ⅱ」の授業を受けながら、レポートとして難しいと思いました。留学生として、レポートが抽象的で始まったときは来たばかりの学生たちもいるのに、今の私にとって大切なコミュニティを選ぶのがかなり難しいと思いました。でも、今の私にとって大切なグループ(コミュニティ)について考えられる機会としては、いいと思います。